

Sakura Citizen Collaboration Team News No.8

—市民協働推進チーム—



分科会活動中間発表を開催しました。

9月15日(木)に市民協働推進チーム分科会活動の中間発表会がありました。分科会活動は協働を利用して市の問題点を改善する体験をすることを目的としたものです。市政アドバイザーの毛塚幹人さん、財政課長の佐藤康夫さんにお越し頂き、活動のヒントやアドバイスを頂きました。内容をご紹介します。



分科会活動1 ☆さくらプロモチーム

(メンバー 大坂・渡邊・佐藤・西潟・大澤・飯島・浅井)

「さくら市PRショートムービー」をTikTokで発信



どんな分科会？「さくら市＝何もなかったところ」と思っている若者が多いのではないかと、若者が活躍できる場が限定的でないかという問題意識を持ち、さくら市にも魅力が溢れていることを若者に伝えていこうという想いで活動をスタート。29歳までの市民(公募で集まった7名)とさくら市の若手職員と一緒に街を歩き、PRする素材を見つけ、動画を編集・発信している。

アドバイザーからの意見 TikTokを見た人にどんな行動変容をおこしたいか意識することが大切。さくら市で実施されているpaypay20%還元キャンペーンとコラボして情報を発信はどうか。さくら市で動画を発信したい人の受け皿を作ってほしい。

分科会活動2 ☆マルシェチーム

(メンバー 伊藤・川井・齊藤・西原・渡邊・岩崎)

マルシェに参加し子育て世代を元気に



アドバイザーへの相談内容

- (1) 今後の継続(他団体との公平性の問題)
- (2) 出店以外の関わり方(行政としてどのような協力ができるか)
- (3) 市民協働推進チームで出店した場合、商品を販売しても問題ないか

どんな分科会？ コロナ禍で人と人の繋がりが希薄になっていること・特に子育て世代の孤立に問題意識をもち、さくら市で子育て中の人をターゲットとしたニコマママルシェを協働相手に選ぶ。春はマルシェに出店し、わたあめの配布を行い子どもたちを喜ばせた。今後は出店の際にアンケートを実施し子育て世代からの要望を調査、分析し、事業を提案する予定。

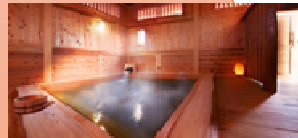
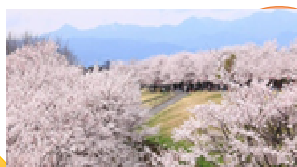
アドバイザーからの意見 協働相手として選んだ理由をしっかりとと言えるのであれば他団体との公平性は意識しなくてよい。(×八方美人) 収支を明確にして黒字を寄付すればマルシェで材料費程度の料金で販売してよい。行政としてどのような協力ができるかについては、協働相手がどのようなマルシェを目指しているのか聞き取りをしてみるとよいと思う。

分科会活動3☆ご当地マンホールチーム

(メンバー 水上・津田・田代)

「さくら市の魅力が伝わる」マンホール蓋を提案

現行の下水道マンホール蓋



どんな分科会？ 水道のマンホール蓋は事業開始当初のデザインのままであるが、「さくら市の魅力が伝わる」ご当地マンホールを新たに作成することで水道・下水道の持つ役割の重要性をより多くの人に知ってもらい、シティープロモーションの一環としてさくら市のPRになると考える。さくら清修高校の美術部にデザインの考案を依頼している。

アドバイザーからの意見 何パターンか設置すると市の回遊に繋がる。高校生にデザインを依頼する場合、責任の所在が難しい面がある。発注の段階から何を求めているか指示を行い、作成してもらったデザインを複数の人に見てもらい意見をもらうのが大切。実現できるかは未定であるが、協働相手の高校生に失礼にならないよう、最低限、市のHPで紹介する等の約束をするのもよいと思う。

分科会活動4☆菜の花プロジェクトチーム

(メンバー 石原・宗形・齊藤・小野)

菜の花で勝山公園の魅力UP

勝山公園平面図



どんな分科会？ 勝山公園の桜の見本園の基盤及び桜の植栽は完了したが、桜の時期以外の魅力が少ないので、現在雑草が生えてしまっている土地に菜の花を植える。菜の花は見て楽しみ、食べて楽しむことができる点に加え、土壌改良効果があり維持が大変ではないため、菜の花を選択。春には桜と菜の花を同時に楽しめる景観を作りたい。市民と持続的に続ける方法を模索中。

アドバイザーからの意見 毎年散った後の雑草の処理等負担が出るため、協働相手の市民ボランティアとは十分なコミュニケーションをとることが大切。1500㎡菜の花を植えるだけでは映えるかどうか、話題性があるかわからない。ミュージアムに関連した植物を植えたり、ウクライナ支援の水色を背景に写真が撮れるようにする等はどうか。

—next time—

次 回

10月13日(木)

分科会活動・新しい体育祭の検討(スポーツ振興課依頼)を実施します

【問】総合政策課 市民活躍推進係